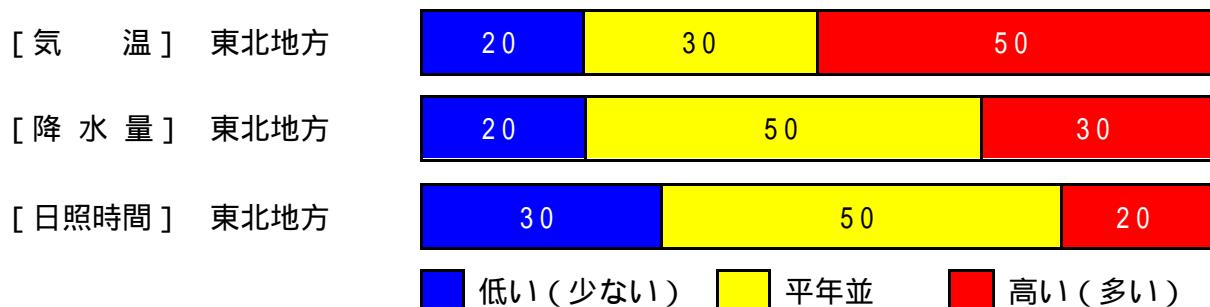


東北地方1か月予報の解説(予報期間:9月8日~10月7日)

平成13年9月7日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「高い」の可能性が大きく、その確率は50%です。「低い」の可能性は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「多い」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。「少ない」の可能性が次に大きく、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

天気は概ね周期的に変わるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数: 東北地方で約13日

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 期間の前半は気圧の谷が通り、東北太平洋側を中心に曇りの日がありますが、その後は概ね晴れるでしょう。なお、台風第15号の動きには注意してください。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数: 東北地方で約3日

2週目…………… 天気は周期的に変わるでしょう。

(9月15日~9月21日) 平均気温は高いでしょう。

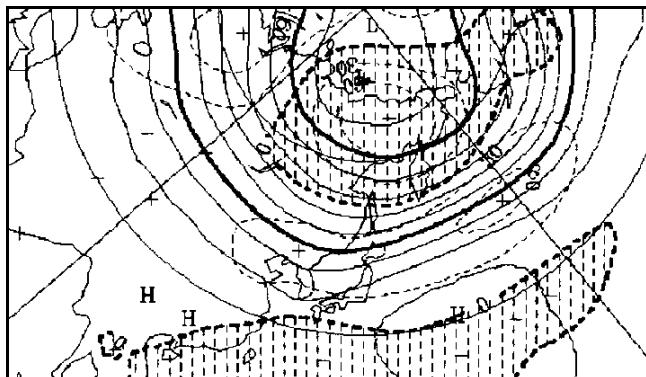
平年の晴れ日数: 東北地方で約3日

3~4週目…………… 天気は周期的に変わるでしょう。

(9月22日~10月5日) 平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数: 東北地方で約7日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

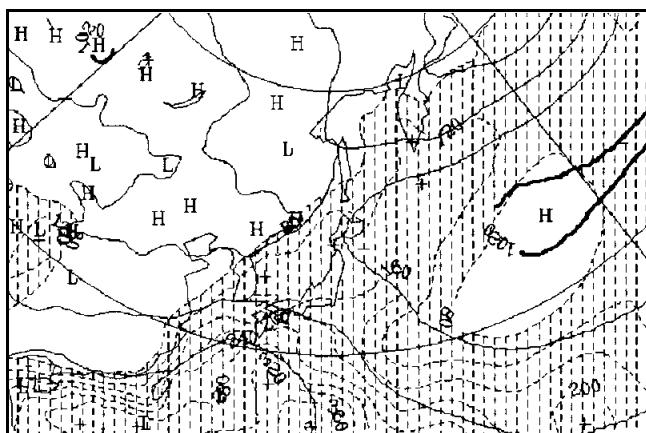


月平均の500hPa高度・偏差
(等高度線：60m毎、偏差：30m毎、陰影部：負偏差)

- 500hPa高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は東西に広がる正偏差に覆われ、寒気は南下しにくい。偏西風の流れは弱い西谷傾向を示すものの、ほぼゾーナルで、天気は概ね周期的に変化する。

週別（図略）でも、日本付近正偏差でゾーナル～弱い西谷が続く。

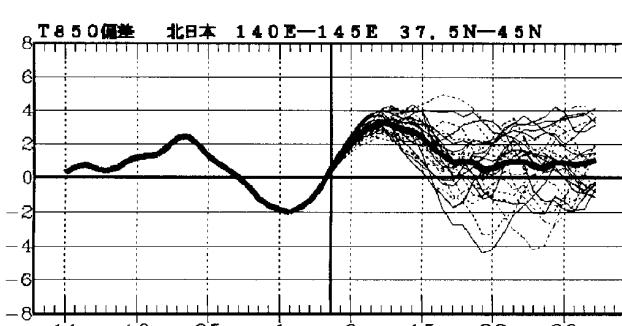


月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa毎、降水量：40mm毎、陰影部：80mm以上)

- 地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本のはるか東海上に太平洋高気圧があり、北海道付近に高気圧の軸が伸びる。日本付近には降水域が広がるが、前線に対応するようなまとまった降水域は見られない。

週別（図略）では、2週目、3～4週目とも気圧配置は月平均と同様。降水域は本州の太平洋側を中心に日本付近に広がるが、弱い。



北日本850hPaの気温平年差の実況と予想

（縦軸：気温平年差（度） 横軸：日付）

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）
の平均値

- 北日本850hPa気温平年差の時系列

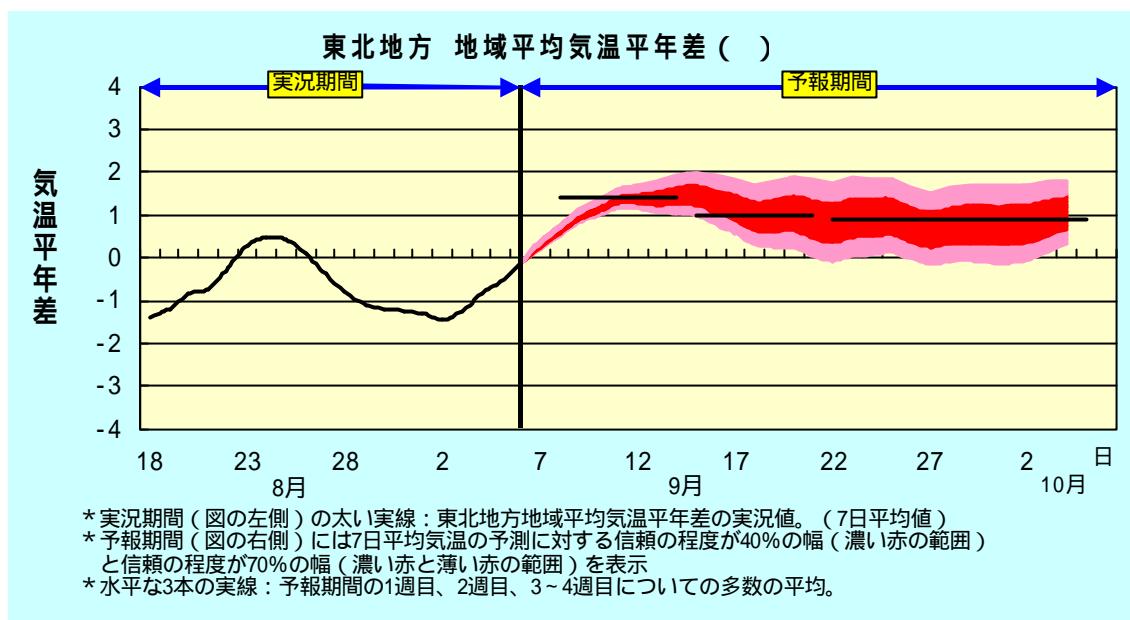
アンサンブルメンバーの平均は、はじめ平年を大きく上回り、その後も平年を上回る状態が続く。

ただし、各アンサンブルメンバーは2週目以降バラツキが大きくなる。ほとんどのメンバーは平年並から高めを予想しているが、強い低温を予想するメンバーもある。

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目共に「高い」を予測しており、予報も各週とも「高い」。

なお、予報の信頼度は小さい。

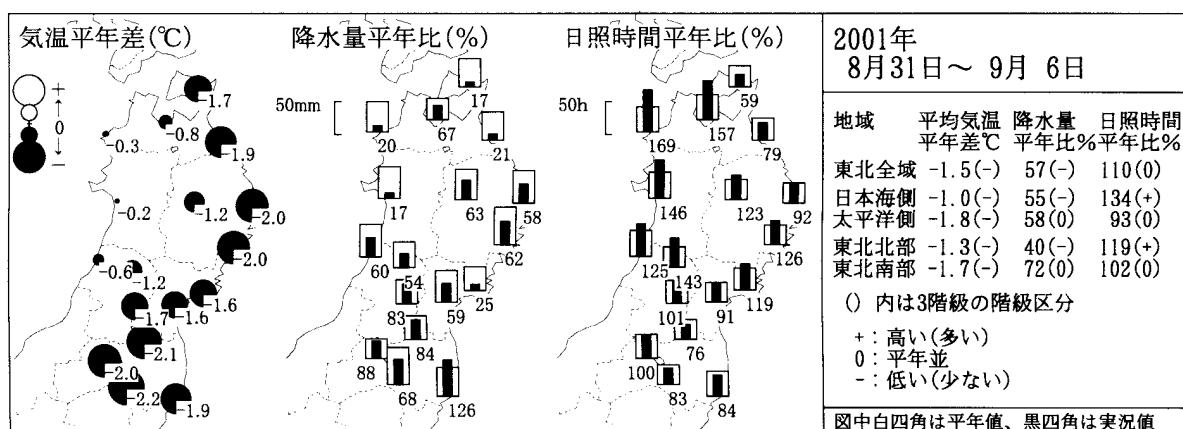


4. 最近1週間(8月31日~9月6日)の天候の経過

この期間、天気は概ね周期的に変化した。北に偏った高気圧から冷たい東よりの風が入ることが多く、東北太平洋側を中心に低温となった。

31日は気圧の谷の通過で雨の所が多かった。1~2日は高気圧に覆われ概ね晴れた。3~4日は本州の南岸沿いを低気圧が通過したため、東北南部を中心に曇りや雨となった。5~6日は高気圧に覆われ概ね晴れた。

平均気温は、東北日本海側で平年差-1.0、東北太平洋側で平年差-1.8とともに低かった。降水量は、東北北部で平年比40%と少なく、東北南部で平年比72%と平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比134%と多く、東北太平洋側で平年比93%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)